

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 214人

② 数学 214人

③ 理科 211人

5 留意事項

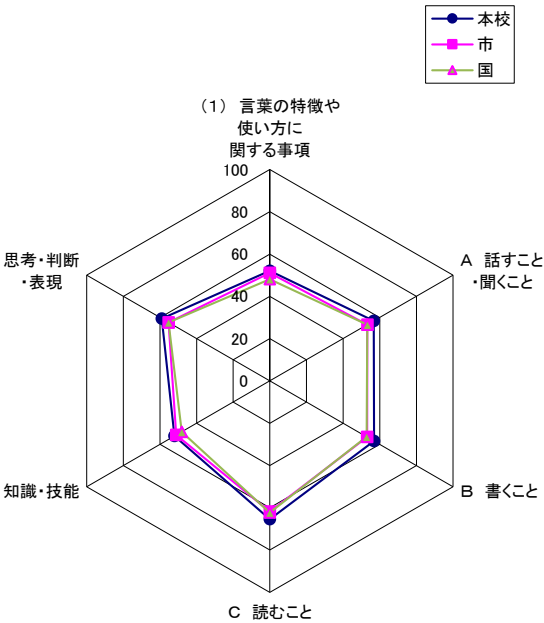
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況
宇都宮市立宮の原中学校

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	52.1	51.1	48.1
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	56.7	53.2	53.2
	B 書くこと	56.9	53.1	52.8
	C 読むこと	65.4	61.8	62.3
観点	知識・技能	52.1	51.1	48.1
	思考・判断・表現	59.0	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

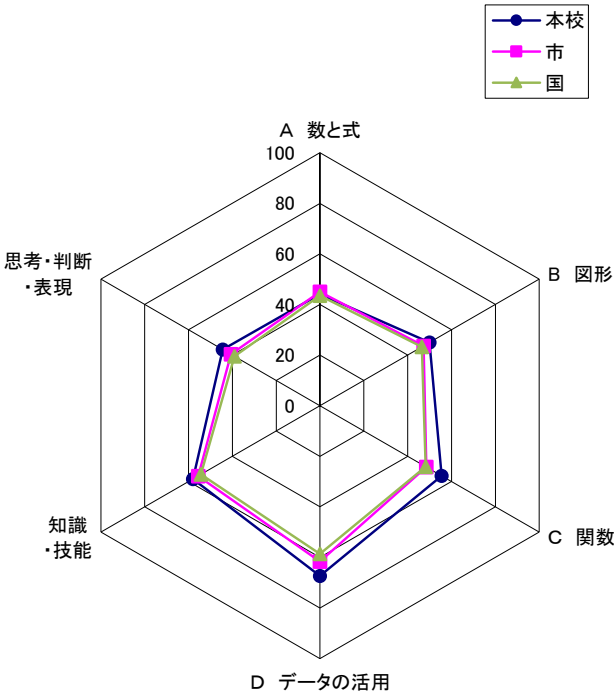
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	○「文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる」設問では、市平均を3.4ポイント、全国平均を4.5ポイント上回っている。 ●「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる」設問では、全国平均を1.5ポイント上回っているが、市平均を1.3ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字や語彙力を定着させるため、文脈の中で意味を理解し、実際に使う機会を増やす必要がある。特に誤答の多い語彙は類義語等と関連付け、定期的な小テストや振り返りを継続して実施する。 ・言葉の知識を実践的に活用させるため、日常生活で触れる多様な文章から言葉の用法に注目する指導を継続する。これにより、知識の定着を図り、実用的な運用能力の育成を目指す。
A 話すこと・聞くこと	○すべての「相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」設問では、無回答率が0%だった。 ●「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」設問での正答率は市、全国平均を上回っているが、27.6%と特に低い。	・発表やスライド作成で培った表現力を基礎として、双方向的なコミュニケーション能力を一層伸長させる必要がある。聞き手の反応を意識し、自身の発言意図を明確にする訓練を継続して実施する。 ・グループディスカッションやプレゼンテーションの機会を増やし、相手の質問や意見に対し、根拠を明確にして応答する力を養成する。これにより、効果的なやり取りができるよう指導を強化する。
B 書くこと	○「目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」設問では、正答率が82.7%と高く、市と全国の平均を上回っている。 ●「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる」記述式の設問では、市平均を8.1ポイント、全国平均を8.6ポイント上回るものの、無回答率は27.1%と非常に高い。	・資料や物語など多様な文章から情報を正確に読み取る力を引き続き伸ばすために、発展的な内容に取り組み、多角的な視点から文章の内容や表現効果を考察させ、深い読解力を養う活動を充実させる。 ・筆者の意図や表現の工夫について、根拠を明確にしながら多面的に議論する機会を増やす。これにより、批判的・創造的な読みの力を伸長させ、より深い学びへとつなげる。
C 読むこと	○「文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる」短答式の設問の正答率が92.5%と高く、市平均を2.8%、全国平均を2.6%上回っている。 ●「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」設問での正答率は市、全国平均を上回るものの20.6%と低く、無回答率は25.7%と非常に高い。	・論理的かつ分かりやすい文章を作成するため、構成力と展開力を重点的に指導する。書く活動の前に構成メモやアウトライン作成を徹底させ、自身の考えや根拠を整理する習慣を定着させる。 ・他者の文章を評価し、自身の文章を客観的に見直す相互評価活動を積極的に導入する。これにより、表現の改善を図り、読み手に的確に伝わる文章作成能力の向上を目指す。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況
宇都宮市立宮の原中学校

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	44.1	45.0	43.5
	B 図形	50.0	47.2	46.5
	C 関数	55.5	48.5	48.2
	D データの活用	67.3	61.6	58.6
観点	知識・技能	58.0	55.6	54.4
	思考・判断・表現	44.4	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○「事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる」設問では、市平均を4.0ポイント、全国平均を3.6ポイント上回っている。 ●「素数の意味を理解しているかどうかをみる」設問では、1も含めて素数と選ぶ割合が高く、市平均を5.6ポイント、全国平均を2.8ポイント下回っている。	・引き続き基礎・基本の定着を図るために、ペア学習などの指導法の工夫や確認テストなどを取り入れ、反復学習を継続する。 ・記述式の設問における正答率を上げるために、話し合い活動を積極的に取り入れ、一人一人の生徒が課題解決に十分に向き合い、筋道を立てて説明する力を育成するようにする。
B 図形	○「ある事象が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる」設問では、市平均を7.8ポイント、全国平均を9.8ポイント上回っている。 ●「多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる」設問では、市平均を4.9ポイント、全国平均を6.7ポイント下回っている。	・内角や外角の関係等を視覚的に捉えることができるよう、ICTの活用の充実を図る。 ・証明をする際に、見通しをもって根拠を明確にして説明することができるよう、ICTの活用や学び合い活動等の指導の改善を行う。
C 関数	○すべての設問において、市と全国の正答率を上回っている。特に、「事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる」設問では、正答率が80.8%と高く、市平均を7.7ポイント、全国平均を8.9ポイント上回っている。 ●「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」設問では、市、全国の正答率を上回っているが、正答率は37.7%であり、無回答率は35.5%であった。	・一次関数の表、式、グラフを相互に関連付けて理解している生徒が多いため、具体的な事象を関数関係として捉え考察し、表現する活動を充実する。 ・問題解決の方法を数学的に説明できるよう、目的に応じて表、式、グラフを適切に選択し、的確に表現する力を育成する。
D データの活用	○すべての設問において、市と全国の正答率を上回っている。特に、「必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる」設問では、正答率が80.8%と高く、市平均を3.2ポイント、全国平均を3.4ポイント上回っている。 ●「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる」設問では、正答率は市、全国の平均を上回っているが、無回答率は短答式であるにもかかわらず6.5%であった。	・場合の数に基づいて確率を求めることに積極的に取り組む生徒が多いので、今後不確定な事象に関する問題解決を確率を用いて説明できる問題に多く触れさせたい。 ・引き続き基礎・基本の定着を図るために、反復学習と指導法の工夫を継続する。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	57.9	54.5	56.1
	「粒子」を柱とする領域	61.6	62.2	61.7
	「生命」を柱とする領域	48.0	46.5	44.8
	「地球」を柱とする領域	41.4	36.7	37.3
観点	知識・技能	67.4	67.0	66.8
	思考・判断・表現	41.8	38.3	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			

※中学理科の調査は、CBTで実施されている。

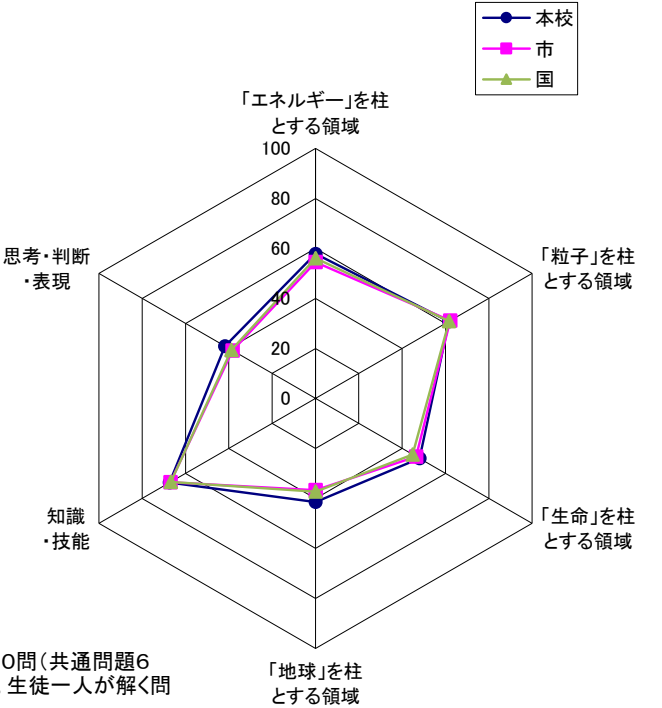
※CBTの調査では、生徒全員に同じ問題が出題されるのではなく、公開問題10問(共通問題6問、実施日より指定された問題4問)と、非公開問題が16問出題されている。生徒一人が解く問題数は26問である。

※公開問題22問(共通問題6問、実施日より異なる問題16問)の調査結果を集計した値である

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○「電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる」設問では、市平均と全国平均を1.2ポイント上回っている。 ●上記の設問では、直列回路や並列回路における電熱線の回路全体の抵抗や発熱量の関係について、約40%の生徒が理解していない。	・オームの法則を利用するための基礎・基本の計算をしっかりと理解させ、直列回路と並列回路の回路全体の抵抗の大きさの求め方を復習していく。 ・身近な電化製品の電気回路について探究する場面を通して、抵抗に関する知識を身に付けさせていく。
「粒子」を柱とする領域	○「科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる」設問では、市平均を4.1ポイント、全国平均を5.4ポイント上回っている。 ●「塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる」設問では、市平均を9.1ポイント、全国平均を8.9ポイント下回っている。	・「粒子」を柱とする領域の正答率は、他領域の正答率より高いが、市や全国平均より低いため、これまでの既習事項を振り返り、基礎・基本を定着させていく。 ・化学変化に関する知識及び技能を活用して、化学変化を原子や分子のモデルで表すなど、実験の結果を分析して解釈する力を身に付けさせていく。
「生命」を柱とする領域	○「水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる」設問では、正答率が35.5%であり、市平均を2.8ポイント、全国平均を5.8ポイント上回っている。 ●上記の設問では、市や全国の平均を上回っているものの、約60%の生徒が理解できていない。	・今後も生命に関する基本的な知識・技能を高める指導に重点を置きながら授業を行うとともに、授業内外で既習事項を含めた反復練習を行っていく。 ・基礎・基本はしっかり押さえられているが、理科の見方・考え方を働かせることには課題がある。実験・観察の際の予想をしっかりと立てさせて、見通しをもった授業展開を行っていく。
「地球」を柱とする領域	○「地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる」設問では、市平均を5.7ポイント、全国平均を6.6ポイント上回っている。 ●「地球」を柱とする領域の正答率は、市と全国の正答率を上回っているが、41.4%と全ての領域の中で低い。	・今後も基本的な知識・技能を高める指導に重点を置くとともに、見方・考え方を働かせる授業展開の工夫を行っていく。 ・これまで学習した知識及び技能を関連付けて、問題を分析して解釈する力を身に付けさせていく。



宇都宮市立宮の原中学校 第3学年 生徒質問紙

宇都宮市立宮の原中学校

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思いますか」では、学校全体の肯定的回答の割合は92.2%と高く、県平均を4.2ポイント、全国平均を6.0ポイント上回っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」では、学校全体の肯定的回答の割合は95.4%と高く、県平均を1.1ポイント、全国平均を3.2ポイント上回っている。自分自身のよいところを認識できている生徒が多く、自己肯定感が高い状況にあり、生徒と教員の良好な関係性がうかがえる。

○「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると考えますか」では、学校全体の肯定的回答が県平均を8.2ポイント、全国平均を11.5ポイント上回っている。授業での活用などにより、ICT機器による情報整理能力に自信をもっている生徒が多いと考えられる。今後も適切な活用をしていきたい。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」では、県平均を5.3ポイント、全国平均を11.3ポイント上回っている。授業において、生徒が探求的な学習活動に積極的に取り組んでいることが分かる。今後も計画的な課題解決学習を行っていきたい。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」では、学校全体の肯定的回答が91.3%と高く、県平均を2.3ポイント、全国平均を7.0ポイント上回っている。また、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」では、学校全体の肯定的回答が88.0%と高く、県平均を5.6ポイント、全国平均を10.7ポイント上回っている。授業において生徒が互いに意見を伝え合う中で、他の意見を受け入れ、前向きに取り組もうとする姿勢が見られる。今後も言語活動を充実させていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)」では、「勉強のために使っている」を示す以下の4つの選択肢「3時間以上、2時間以上3時間より少ない、1時間以上2時間より少ない、30分以上1時間より少ない」において、全ての選択肢で県平均と全国平均を下回っている。特に「全く使っていない」と回答した生徒が33.9%と多く、ICT活用能力はあるが、授業以外でICT機器を利用した学習時間は短いことが分かる。家庭でもICT機器を用いた学習活動を充実させるような課題を作成していきたい。

●「新聞を読んでいますか」では、「ほとんど、または、全く読まない」と回答した割合が81.2%と非常に高く、新聞を読む機会がほとんどないことが明確に示されている。新聞を購読していない家庭も多いため、多様な情報に触れる機会の不足が見られる。学校教育の中で新聞を用いた学習に取り組む機会を設けていきたい。

宇都宮市立宮の原中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学業指導の充実 ・家庭学習の習慣化	・チャイム2分前着席を徹底する。 ・課題などの提出は徹底を図り、必ず確認して励ましたり個に応じた課題を与えたりする。	・授業に集中して落ち着いて学習することができている。 ・家庭学習の習慣は定着しつつあり、基礎基本の習得ができている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・ICTの授業以外での活用に課題がある。 ・新聞をはじめとした活字を活用する機会が少ない。	・1人1台端末の学習利用を促す。 ・新聞や本など活字を読む活動を実践する。	・授業だけでなく、家庭学習においても1人1台端末を積極的に学習に活用できるような課題を設定する。 ・朝の読書を継続しながら、学級活動等でNIEなど新聞を教材として活用する活動を実践する。